

第1回日本学術振興会 育志賞受賞報告

信川 正 順

〈京都大学大学院理学研究科物理学第二教室 〒606-8502 京都府京都市左京区北白川追分町〉
e-mail: nobukawa@cr.scphys.kyoto-u.ac.jp



このたびは第1回(平成22年度)日本学術振興会 育志賞(以後、育志賞)を授賞させていただき、まことにありがとうございます。日本学術振興会が天皇后陛下から若手研究者を支援・奨励する事業の資として御下賜金を賜り、人文・社会科学及び自然科学の全分野の博士課程大学院生を顕彰する目的で育志賞が制定されました。育志賞についてはテンネット[2010年6月2日、7710参照]で初めて知りました。応募には大学あるいは学術団体の長からの推薦が必要です。私は京都大学大学院宇宙線研究室で、2006年4月よりX線天文衛星「すざく」を用いた天の川銀河中心拡散X線の観測研究を行ってきました。この研究課題で日本天文学会から推薦していただきました。

応募総数206名の中から書類選考を通過し、2010年12月初めに面接選考が行われることになりました。11月終わりに面接通知が来たときは通ると思っていなかったもので、非常にビックリしてしまいました。面接では7分間で自分の研究内容と今後の抱負について説明し、その後22分間の質疑応答があるということでした。学会や研究会とは違うので、どのような審査がされるのか全くわからず不安と緊張でいっぱいでした。しかし、せっかくなので精一杯自分の研究をアピールすることが一番だと開き直り、自分のこれまでの研究だけでなく、天文学の面白さを熱心に訴えようと思いました。

面接会場に入ると、ノーベル物理学賞を授賞された著名な研究者など15名程度の方々を待ち構えていました。テレビや新聞でしか見たことがなくても、知っている方がいるとずいぶんと気

が楽になるものだと感じました。研究内容の具体的な事柄から、研究に対する姿勢や考え方、これから研究を志す人へのコメントなど、いろいろな質問がされました。私は自分のこれまでの研究は非常に面白いものだと思っていますし、きっとこれから研究をする人も同じように思うでしょう。私は自分の素直な考えを述べました。それが功を奏したのかわかりませんが、1月初旬に授賞内定の通知がきました。

授賞式は天皇后陛下がご臨席の上、2011年2月1日に日本学士院(東京都上野)で行われました。賞状の授与式の後にお茶会が催され、そこで私たち授賞者は両陛下とそれぞれ1分ほど懇談させていただく機会がありました。

私「すざく衛星を使って宇宙からのX線を観測をしています。私たちの銀河系の中心部にある巨大なブラックホールが過去に爆発したことがわかってきました。」

天皇陛下「そうですか。はやぶさやあかつきなど最近の宇宙研究は進んでいますね。これからはがんばってください。」

と、天皇陛下から励ましのお言葉を頂戴しました。皇后陛下にもお話をさせていただき、「へえ、ブラックホールからX線が出るのですね。」

と興味をもっていただきました。両陛下だけでなく、多くの方々からもお祝いの言葉をいただき、本当に嬉しく思いました。

天文学は社会のために目に見えて役立つものを生み出すことはないかもしれませんが、しかし、古来より培われてきた天文知識は人類の最重要財産



授賞式の集合写真（日本学士院にて）。中段右端が著者。

の一つであることは間違いないと思います。夜空を見上げると、ほとんどの人はワクワクしたり、神秘的な気持ちになったり、何かしらの情動があるだろうからです。私は、自分が切り開いた宇宙研究が少しでも多くの人に感動を与えられればと思っています。

最後になりますが、私がこのような名誉ある賞

をいただけたのも、小山勝二先生と鶴剛先生の厳しいご指導があったからです。深い感謝の気持ちに絶えません。また、研究室の諸先輩や後輩のみなさんにも研究の助言のみならず、暖かい励ましをいただきました。今後はより一層、研究に邁進していきたいと思っています。ありがとうございました。